

2019年12月1日

幼保連携型認定こども園

YMCA 保育園 12月えんだより

12月聖句

「光は暗闇の中で輝いている。」

＜ヨハネによる福音書 第1章5節＞

今年もあと1ヶ月で新年を迎える12月になりました。1年を振り返れば、今年も全国各地で、酷暑や台風の被害等、自然の猛威を感じた次第です。多くの被災者の方々や関係者は、この年末も復興の為に働くことも覚え、明日への希望が見出していくことができるようにと祈ります。

12月のクリスマスシーズンに灯すキャンドルの光は、世の光であるイエス・キリストのシンボルです。キリストは、すべての人を照らす真の光として、約2000年前にこの地上に降誕されて、全ての闇を消し去ってくださるといいます。

「一寸先は闇」という諺があります。これから先のことはどうなるのか、わからないという意味で使われますが、今は何でも見えているようで、実際は一秒あとに何が起るか全く分らないというのが現実です。東日本大震災での地震・津波や今年の台風も、突然地元の人々に振りかかってきたわけです。普通の生活をしていた人々が、避難生活を強いられている姿を見る度ごとに、まさに一寸先は闇ということが、現実であることを実感します。

病気、家族、経済、将来への不安など、なかなか消えない心を覆う黒雲のような不安があります。人間関係の闇もあります。例えば、いじめや虐待、一つ屋根の下で生活を共にしているが親子の断絶という現実もあります。罪という闇があります。誰にも言わないで罪の行いを心に隠しているということもあります。罪を持ったままでいると心が痛みますね。

「光は闇の中で輝いている」聖書の言葉の意味は、自分の力を信じ、闇を振り払う努力をして、解決につながるステップを踏めた時には、暗闇の中に一条の光を見出すことができ、それは希望をもたらしてくれることになるということです。そしてその闇が濃ければ濃いほど、光の有難さが分ります。闇の中に光が照る時に、闇は、光の強さに伴い薄くなり消えて行きます。

朝、目覚めと共に雨戸を開ける、あるいはカーテンを開けると朝の光が部屋いっぱい差し込んできます。しかし、開けなければ暗いままで。私たち一人一人が自分の心の扉を開けて、私たちに苦しめる全ての闇を追い払うように少しずつでも努めていく時に、私たちの日々は新しくなるものと思います。自分の力を信じ闇に負けない光を求めて、神様の言葉と共に歩いていくことを願います。

最後に、先日、長崎でのローマ教皇のメッセージにもありました、言葉と共に、新たな年を迎えていきたいと思えます。「主よ、わたしをあなたの平和の道具としてください。憎しみがあるところに愛を、いさかいがあるところに赦しを、疑いのあるところに信仰を、絶望があるところに希望を、闇に光を、悲しみあるところに喜びをもたらすものとしてください。」

今年も皆様のご支援やご協力のもと、共に歩むことができましたこと、心より感謝申し上げます。

年主題 『ことばに満たされて～ひびきあう～』

12月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	うれしいね	喜び合う
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> *クリスマスを迎える雰囲気を楽しみ、喜んで待つ *保育者や友だち、家族と一緒にクリスマスを喜ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> *クリスマスの意味を知り、喜びを分かち合う *いろいろな人のことを思い、自分ができることを考える *心を合わせて表現することを楽しむ
讃美歌	おほしがひかる	きよしこのよる こども改74